

# 東京バッハ合唱団 月報

[第703号] 2021年1月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.703

January 2021

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## とんでもなく大きな変化を背負って やってきた新年に、おめでとう

大村 恵美子(主宰者)

新しい年のお喜びを申し上げます。といっても、こんな微妙な状況の年明けは、長い間生きて来た私にも、全く初めてで、それが、人間同士憎み合いの戦争でもなく、天変地異でもなく、誰も肉眼で見たこともない、コロナという名前だけは可愛らしげな微生物(?)様のもののせいらしく、一人々々の個人がそれに見込まれてしまうと、何も平常生活が出来なくなり、死亡率は今のところ物凄いという感じにまでは届かないでいるけれども、快復予後が長くすぐれないでいるという、難癖のしろものである。実際に相手が見えないので、怒ったり罵倒したりも出来ず、ただ生活に多大な困惑を来している——というような、すっきりしない日常に面している。

そこに、お正月が来てもご挨拶をかわす帰省や宴会や正月定番のゲームなど、すべて控えて、自宅にこもって過ごせとの要望(これも内閣や政治家一般、はっきりしないもどかしさで)。私自身は、あまり痛痒を感じない。もう超高齢で相棒と2人で音楽(主にJ.S.バッハのカンタータ)の勉強や、読書など、無限の対象に包まれているから、コロナ騒ぎの前と後とに、それほど大きな影響はないのだ。さいわい、いまのテレビなどの内容の貧困化には、目に余るものがあって、引きつけられない。

さて、こんな、いわば新鮮味の乏しい、期待の持たない新年は、忠告にさからって外出を試みる気もわかず、行動範囲もどんどん狭まって、お座なりにも楽しいひととの会話も生まれて来ない。

余計なことだが、私は反対に、社会とのつき合いがバッサリ減る一方、その分だけ自分自身の勉強や読書に、すっぴんはまりこんでしまい、バッハのモテットの訳詞の比較追究や、近い将来、定期演奏会で演奏するカンタータ類に、思いきり没頭できて、日常生活の内容がまことに整然として楽しい。旧臘12月の定期演

奏会は、音楽ホールの予約をキャンセルすることになったが、そのお蔭で、杉並区の応援を得て、YouTubeでの演奏披露という、これまで考えもしなかったイベントを体験することができた。公開(12月19日)翌日以降は、この演奏を見聴きしたという人々が700人だった、もう1200人になった——と、今までとは桁のちがう数字におどろかされた(大晦日の午前で視聴数1858回)。

何事も経験——私たちの意識よりも、社会の変遷がどんどん越えて、貴族の屋敷や教会の大きな礼拝堂、つづいては一般庶民のための有料コンサートホールにまで至ったところで、一気に人為性の強いユーチューブにまで辿りついてしまった。

といっても、普段の合唱練習は、まだ昔と変わることなく、大勢集まったところで、和気藹々と重ねられている。私も12月5日の、非常に人為的な、無秩序の演奏が、まだ試験の域を出ず、たくさんの聴衆の前で、しばしば一同涙を共に感じながら、声をふるわせるのを

抑えながら、歌いつづける、あの感動が、果たして同質に保てるものかどうか、よくわからない。どのような面に、お金をかけるのか、その辺のことも想像できない。

つまり、コロナ禍による、なるべく動かない日常生活とは異なった面で、今度は人間以外の様々な機械が、私達の演奏と、圧倒的により広い範囲の多数の聴衆を結びつけ始めているのだ。すぐあとから大歓迎の感想も舞いこむが、演奏した側の気持ちには、何か堅い、違和感があるのも事実だ。どんなことになるのか、この2つの、まだこなしきれないでいる、人間社会の徴候に、私たちはこれから立ち向かって行くのだと考えれば、何か今年は、想像を絶するほどの人間社会の前進となるようで、あれこれ馴染まないのは仕方ないとしても、乗り出して楽しんでゆくしかないのでは……。そうだとすれば、大きな実感をこめて「おめでとうございませう」と挨拶できるような気もする。

とにかくどの新年にも増して、とんでもなく大きな変化を背負ってやって来た2021年は、めでたいに違いない。<ア>



■「?」(撮影: B千葉光雄)

### 月報2021年1月号 CONTENTS

- ・協演——母語そのものが声となり(椿 高明)……p.2
- ・ユーチューブ公開の反響 / 今後の演奏計画 / 野尻湖合宿の初夢(大村恵美子) / 120定演の曲目…… - p.4

## 無聴衆オンライン公演を協演

### 母語そのものが声となり音韻となって

椿 高明 (ARSメンバー、オーボエ)

収録時、やむを得ずバラバラに分解された4作品を、合唱付きではじめて曲順で聴くことができました。たったおひとりで、何台ものカメラを回され、ディレクターから編集まで、遂行されたパラビジョンさまの偉業に拍手。この2週間、どれほどお忙しかったことでしょう。特筆させていただきたいのは、曲と曲の間の時間。これがぴったり。また、字幕オプションもとても役立ちました。

日本語になった歌詞の美しさに、あらためて深く心が響きました。音節数を大幅に減らさなければならぬ過酷な制約下にあつて、本質をいっさいうしなうことなく、むしろ行間の余韻すら漂わせる、日本語の詩を編み出された大村恵美子先生の力に脱帽です。これは、日本語にあつて短歌俳句の伝統、芭蕉や一茶の金字塔に迫る、驚くべき作業だと、あらためて感じ入りました。

そして、「訳文を見ながら聴く」のではなく、母語そのものが声となり音韻となって聴こえることが、どれほど心に響くことか。それを1ミリでもよりよく実現させようと、日ごとの練習を60年近く重ねてこられた合唱団の表現力と迫力に、深く心が震えました。信仰のための音楽は、心にとどくことこそまず最も重要で、教会で讃美歌はぜひ(ラテン語でなく)日本語で歌いたいように、主を賛美するためのバッハの教会作品は、ぜひ日本語で歌いたい、との合唱団の信念を感じました。文語体の日本語歌詞を、何十年も歌い続けてこられた合唱団の醸し出す雰囲気は、格別です。

(YouTube コメント欄より)

#### <東京バッハ合唱団 次回公演予定>

##### 第120回定期演奏会

[日時] 2021年6月5日(土) 午後2時開演  
[会場] 川口総合文化センター・リリア音楽ホール  
(新宿駅からJR等で約17分)

[曲目] (日本語上演)

- ・カンタータ第113番《イエス 高き宝》
- ・カンタータ第93番《ただ主に依り頼み》
- ・カンタータ第78番《イエス わが心を》
- ・カンタータ第184番《待ち望みたる 喜びの光》

[演奏]

ソプラノ：光野孝子      アルト：谷地畝晶子  
テノール：鏡 貴之      バス：山本悠尋  
室内楽：Collegium Armonia Superiore Japan (略称ARS)  
(コレギウム・アルモニア・スプリオーレ・ジャパン)  
オルガン：田尻明葉  
合唱：東京バッハ合唱団      指揮：大村恵美子  
(チケット情報、他、詳細は準備中)

## ユーチューブの反響

### <特別演奏会の映像コメント欄より>

オラトリオ第I部、II部は、ドイツ語で練習したことがあります。懐かしかったです！

日本語の歌詞が分かり易くて、字幕で追えて良かったです。コラールが力強くて良かったです。お疲れ様でした。ありがとうございました。(眞田あゆみ)

バッハが大好きなので、このような演奏活動をされている皆様の情熱を感じられて幸せです。

(軽井沢バレエアルテ)

クリスマスに相応しい素晴らしい迫力ある大合唱で、私の心は洗われました。ポロポロと流れる涙をどうすることもできませんでした。有難うございました。

(羽田妙子)

ありがとうございました。

素晴らしいです。

管弦楽組曲が、素敵です。

クリスマスオラトリオ、充実した演奏です。(hana55)

#### 現在公開中、ユーチューブの見方

YouTube チャンネル:

[www.youtube.com/channel/UCz1rA9bMSTZUONZWxuuB5mQ](http://www.youtube.com/channel/UCz1rA9bMSTZUONZWxuuB5mQ)

①パソコンの場合: インターネットで「東京バッハ合唱団」を検索 → ホームページ中央の「特別演奏会(YouTube にて公開)」末尾の青色文字「YouTube チャンネル」をクリック → 東京バッハ合唱団チャンネル(動画リストから「東京バッハ合唱団特別演奏会 Unser Mund sei Voll Lachens ...」を選択)、以上。

②スマートフォンの場合: 当欄右のQRコードを読み込む → 東京バッハ合唱団チャンネル(以下、①と同様)



### <事務局にとどいたメールから>

橋本 絹代さま (「やわらかなバッハの会」代表)

BWV 110、BWV 248 を拝聴しました。

合唱の方の奮闘が素晴らしい！

バッハの音楽は本当に強いので、どのような演奏形態でも感動しました。

指揮者と一丸となって、コロナをものともしない Musizieren 魂に脱帽、バッハ愛に乾杯！

山村 恵美子さま (サポーター、荻窪教会)

新年おめでとうございます。いつも教会の会堂を使って練習をして下さり、ありがとうございます。

YouTube でクリスマスの特別演奏を拝見・拝聴致しました。演奏会場で聞ける迫力を期待するのは無理ですが、すばらしい演奏でした。寂しいクリスマスに大きな明かりをともして下さいました。

「月報」の記事から、このために周到な準備がなされたようで、本当に大変な思いで演奏されたことと存じます。その上、当日のプログラムもお送り下さり、重ねて感謝致します。

今年もコロナ禍は続くようですが、先生方のお体が守られますようお祈りいたします。

大村 洋永さま (後援会員)

東京バッハ合唱団《クリスマス・オラトリオ》のオンライン・コンサート、観ました。

指揮・合唱・演奏それぞれの息づかいや表情が間近に迫って来て、演奏を立体的に感じつつ、味わう事が出来ました。事前の準備、当日の進行……、恵美子さんはじめ皆さん苦労された事と思います。

ありがとう！

山下 広之さま (後援会員)

あけましておめでとうございます。毎日ユーチューブで流れている東京バッハ合唱団のオンラインによる特別演奏会は良かったです。

高い音を受け持つ声部がグッと自重して底声部をより響かせていて曲の重みがあり、何回聴いても市販のCDには無い飽きない楽しさがあります。「これぞバッハ」の意図を十分に表現した演奏だと思います。斉唱で歌うアリアも良かった。(FB より)

## 2021 年夏の野尻湖合宿は……

大村 恵美子 (主宰者)

最近またもや私は、お正月の初夢に先んじて [年末のことです]、奇怪な夢を見ました。2021 年 (新年) 8 月の野尻湖合宿を見込んで、かなり多数の団員方と一緒に、下見旅行をするのです。

どうやら、ドイツ・シュトゥットガルトの、リング氏率いるゲヒンガー・カントライが来日して、東京バッハ合唱団と、野尻湖で合同コンサートを企画したらしく、その要望に応じて、早々と私たちが下見に来ているという様子でした。

電車が長野県 (群馬県?) に入ると、現実の妙義山とは全然ちがう、黒っぽい岩の、峨々として細く垂直にそびえ立つ、高く孤立した山が現れ、その近くで電車が止まって、長時間の休憩となりました。

そこから目的の野尻湖は、まだ近くないのに、私たちはみんな降りて、野尻湖にたどり着きます。湖面には、もうかなり多くの人々が泳ぎたわむれていて、案内の人が、私たちに、湖一周のための小さな無人ボートを奨めるので、危ぶみながらも、少人数で試乗することにし、泳いでいる人たちや、あちこちに立つ大小の杭の間をきわどく避けながら、運転手なしで勝手放題に動きまわるボートで一周するという、怖い夢でした。ドイツの貴重なゲヒンガー・カントライの方々を、そんな遠足に連れ出したりしていいものか? という、何やら冒険たっぷりの年末の夢。もう何十年も昔、経堂のカフェハウスに大挙してやってきてた、あの懐

## 今後の演奏計画(2021-2024)

(2020.12.10、大村恵美子・案)

2021 年

6 月 5 日 (土)、第 120 回定期演奏会 (14 時開演)

川口総合文化センター・リリア音楽ホール

BWV 113、BWV 93、BWV 78、BWV 184 (BWV 211)

(詳細、左ページ囲み内参照)

8 月 5 - 7 日 (木 - 土)

信州コンサートツアー・野尻湖合宿 (予定)

5 日 (木)、軽井沢迫分教会

6 日 (金)、野尻湖国際村集会場 (神山教会)

7 日 (土)、小布施ミュージアム

曲目：上記 4 曲の教会カンタータと《珈琲カンタータ》(BWV 211) から、各会場ごとに選択抜粋

<以下、私案>

12 月 (日時・会場未定)、第 121 回定期演奏会

《クリスマス・オラトリオ》(BWV 248) 後半 IV - VI

《主にむかいて歌え 新たなる歌を》(BWV 190)

2022 年 (創立 60 周年)

前半 第 122 回定期演奏会、モテット 6 曲

(14 分、8 分、20 分、9 分、9 分、7 分、計 67 分)

後半 第 123 回定期演奏会

松尾茂春《キラキラ星変奏曲》

《マニフィカト》(BWV 243)

2023 年

前半 第 124 回定期演奏会

《安らかにあれ おののく心》(BWV 158) 未刊

《いかで 世を問わん》(BWV 94) 未刊

《備えよ わが心》(BWV 115) 未刊

《主 頌めうたわん》(BWV 16)

後半 特別演奏会 (教会コンサート)

《感謝せん 神に》(BWV 192)

2024 年

前半 第 125 回定期演奏会

《起きて 祈れ》(BWV 70) 未刊

《神畏るる心 偽りなしや》(BWV 179) 未刊

《み神はこの世を かく愛したまえり》(BWV 68)

《平和の君 イェス》(BWV 116)

※以上、計画中です。続報をご注目ください。

かしのメンバーたちです。

でもまあ、不安でおちつかない今の世相にあって、何とか元気をふるい起こして新年に立ち向かおうとする、私の勇気の印とも考えられるでしょうか？

どうぞ皆様、どんな立場に置かれても、乗り切る気迫で新年を迎えましょう。<ア>

## 第 120 回定演(6/5) 曲目、過去の上演歴

当合唱団では、練習用CDが作られ、それによって私達は過去の記録を聴いていますが、いつ・どこで・どなたが歌われたのか、詳細を知りたいくなります。

現在練習中の3曲(BWV 113 は未演なので日本語演奏のCDは無し)について、表にしてみましたので、ご参考に。(大村恵美子)

### ■カンタータ第 113 番《イエス 高き宝》BWV 113

未演

### ■カンタータ第 93 番《ただ主に依り頼み》BWV 93

上演歴	同時上演曲	独唱者
第 77 回定演 1995 年 石橋メモリアル ホール	BWV 134、 <b>BWV 93</b> 、 BWV 37、 モテットⅢ	S 名古屋木実 A 佐々木まり子 T 平良栄一 B 宇佐美桂一
第 95 回定演 2004 年 石橋メモリアル ホール	BWV 77、BWV 78、 <b>BWV 93</b> 、BWV 99、 モテットⅣ	S 光野孝子 A 佐々木まり子 T 佐々木正利 B 宇佐美桂一

### ■カンタータ第 78 番《イエス わが心を》BWV 78

第 33 回定演 1975 年 杉並公会堂	BWV 6、BWV 86、 <b>BWV 78</b>	A 戸田敏子 T 河瀬柳史 B 渡邊明
第 67 回定演 1990 年 石橋メモリアル ホール	BWV 38、BWV 67、 BWV 7、 <b>BWV 78</b>	S 日比吉子 A 田中奈美子 T 佐々木正利 B 宇佐美桂一
第 73 回定演 1993 年 石橋メモリアル ホール	BWV 39、 <b>BWV 78</b> 、 モテットⅠ BWV 5	S 日比吉子 A 田中奈美子 T 平良栄一 B 渡邊明
第 95 回定演 2004 年 石橋メモリアル ホール	BWV 77、 <b>BWV 78</b> 、 BWV 93、BWV 99、 モテットⅣ	S 光野孝子 A 佐々木まり子 T 佐々木正利 B 宇佐美桂一

### ■カンタータ第 184 番《待ち望みたる喜びの光》BWV184

第 58 回定演 1985 年 石橋メモリアル ホール	BWV 22、BWV 23、 BWV 59、 <b>BWV 184</b> 、 BWV 70	S 名古屋木実 A 佐々木まり子 T 佐々木正利 B 渡邊明
--------------------------------------	--	---

## 曲目についての雑感

大村 健二 (団員)

第 120 回定期演奏会(本年 6 月開催予定)でとりあげる 4 曲のカンタータは、当合唱団のなかで、ちょっとした運命にもあそばされています。ご存じのとおり、昨年夏の計画(7 月都内 2 教会、8 月信州ツアー 3 会場)が、突然のコロナ禍で延期あるいは中止となり、主なる出演者ごと、今年の 6 月公演に引き継がれることとなったのでした。教会暦とバッハの初演月日(いずれも 1724 年の)を添えて、改めて並べておきます。

BWV 113《イエス 高き宝》(三位一体節後第 11 日曜日、8/20)  
BWV 93《ただ主に依り頼み》(同 第 5 日曜日、7/9)  
BWV 78《イエス わが心を》(同 第 14 日曜日、9/10)  
BWV 184《待ち望みたる喜びの光》(聖霊降臨節第 3 日、5/30)

\*

実は、もう少し長い前史がありますが、別の機会にします。それよりも、年明け早々に都内の感染者数が急拡大し、二度目の「緊急事態宣言か」などと取り沙汰されていますので、運命の変転は、これで片がついたわけではなさそうです。

この 4 曲のタイトルは、右往左往のお蔭で、2017 年 7 月号月報で「第 120 回定演(2020 年 5 月頃予定)」と発表されてからすでに 3 年半、月報紙上でもわれわれの目にたびたび触れることになりました。小海基牧師の「聖霊降臨祭(ペンテコステ)とは何か」[BWV 184 に触れて]、主宰者の「バッハの音楽日記: 1724 年、そして私たちの 2020 年」[4 曲とも該当](いずれも 2019 年 5 月号月報掲載)、小海師「くらい」、カンタータの中の差別語・問題語[BWV 78 に触れて](同年 10 月号)、主宰者「聖霊降臨祭カンタータと 3 曲のコラール・カンタータ」[全 4 曲解説](同年 12 月号/2020 年 1 月号)と、バックナンバーをとおして学ぶ機会がありますので、ご活用ください(下欄参照)。

\*

ここでは、BWV 113 と BWV 93 について、コラールに焦点を当ててながめてみます。

カンタータ第 113 番《イエス 高き宝》の教会暦聖句は、パリサイ人と取税人の譬え(ルカ 18, 9-14)で、一方は律法を厳格に守っていると心の中で誇っている。対して後者(日ごろ、奪い取るもの、不正な者と蔑まれている)は、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら、「神様、罪人の私を憐れんでください」と祈った、とあります。後者が義とされたことは言うまでもありません。この話しを背景にして、16 世紀の牧師リングヴァルトのコラール詩節が次々に歌われる。

また、第 93 番《ただ主に依り頼み》は、

不漁つづきの湖で、漁師ペトロがイエスの言葉に従って網をおろしてみると大漁だった、という、ペトロが「すべてを捨てて」弟子になったきっかけの話し(ルカ 5, 1-11)。こちらは 17 世紀の詩人ノイマルクのコラール詩節が基本となるコラール・カンタータです。

いずれのコラールも、バッハ当時の人びとに愛され、バッハ自身も好んで複数の作品に応用しています。旋律を知っている方も初耳の方も、作品全体を聞き終えるころには、心で暗唱されているに違いありません。

今公演の、まともな開催実現を祈るばかりです。